

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 581 号	氏名	Tran Thi Ngoc Ha
学位審査委員	主査 中込 治 副査 濱野真二郎 副査 山城 哲		
<p>1 研究目的の評価</p> <p>デング熱は熱帯地域に広範にまん延している蚊媒介性の急性ウイルス感染症であり致命率は高くないが、約 1%が重症化し、デング出血熱/デングショック症候群という病態を呈する。さらにこのうち 10~20%が多臓器不全を伴うショック症状により死亡する。本研究は発症初期に重症化を予測するための指標としての血中遊離 DNA レベルの可能性を考究したものであり、研究目的は十分に妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価</p> <p>2006 年から 2007 年にかけてベトナム南部の病院でリクルートした 194 例のデング熱患者、44 例のデング熱以外の熱性疾患患者および 43 例の健常人対照の合計 281 例(6 ヶ月~15 歳)を解析の対象とした前方視的症例対照研究である。統計学的解析にはカイ二乗検定および多変量ロジスティック回帰分析が用いられ、疾患群間の相違の有意差検定および比較因子の調整後オッズ比の算出が適切になされていた。</p> <p>3 解析・考察の評価</p> <p>ピコグリーン染色定量法による遊離 DNA レベルの測定結果から、健常人対照群、デング熱以外の熱性疾患患者群、デング熱患者群と比較して、デングショック症候群患者では発熱初期であっても明らかな遊離 DNA レベルの上昇が認められた。この有意上昇は、他の臨床マーカーとは独立に重症化と関連していた。このように本研究では解析・考察ともに適切になされていた。</p> <p>以上のように本論文はデング熱に関する質の高い臨床疫学研究であり、デング熱重症化の新たな検査指標の開発につながる可能性が大であると認め、審査委員は全員一致で博士(医学)の学位に値するものと判断した。</p>			